

教育・人材育成ワーキンググループ（第 6 回）意見書

秋田 喜代美（学習院大学）

当日、本務大学での入試関連業務で出席ができませんため、意見書で意見を述べさせていただきます。

1. アンケート結果概要に関して

10代の意見も今回もらえたことは大変貴重である。今回の提案においても、子供目線を重視しているため、このようなコメントが政策に現実に活かされるというプロセスが10代の人たちにも可視化されていくことが10代の継続的な政策立案への参画のために重要である。これまででも中学高校生の意見募集やアンケートはあるがその意見がその後の政策にどのように活かされていくのかを10代の人も見続けていくようなWEBサイトや報告ができていくことが大切であるとする。東京都では子供が作るHPや子ども議会なども考えられているが、さまざまな子供たちの意見が内閣府のリードの下で行われていくことで、公教育の学び手の主体である子供たちが発信し続けられる場が今後生まれていくことを提案や期待したい。

2. Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ（素案）に関して

重要な内容が整理されよくまとまっていると考えられるが、細かな点で以下の点が必要になる場所である。全体に、公正性を目指す教育がより強調される必要がある。

・「2. 教育・人材育成システムの転換の方向性」の中においても、全国一律の発想からP11に示されたような地方格差是正から、さらに各地域の特徴を活かした教育という転換の方向性が必要ではないだろうか。全体としてまだまだ地域の良さを活かす教育の発想、地域の多様性を活かした教育の政策が全体として弱いと感じる。

・「3. 3本の政策と実現に向けたロードマップ」の「政策1①教育課程の在り方の見直し」については、柔軟なカリキュラムと同時に、教育課程の連続性の保障という学校種間連携接続とカリキュラムオーバーロードの軽減による、公正性の保障もまた重要な視点となると考えられる。この点は担当の委員会で議論ということである。

・政策1⑩で「学校環境が画一的・均質的で陳腐化しており、子供たちや学びの多様化等に必ずしも対応できていない状況」という表現であるが、教師たちは現状の中でも真摯に教育に取り組んでいる。「陳腐化」といった現状認識ではなく、「硬直化」「変革困難な状況にある」など、現状の認識を捉える表現を、教師の心情にもっと寄り添った表現にできないかと考える。

・政策2のSTEAM教育に関して、STEAM教育＝理科の増強として「小学校の理数の専科指導の充実」とあるが、STEAMをより教科横断的に発想するため専科教員の増強

という発想だけではなく、STEAM のための専任教員の増員といった発想も必要なのではないか。

3. 教育データの利活用ロードマップに関して

今後教育データの利活用が行われることで、子どもたちへのより良い支援が求められる。その時に気になるのは、3歳から幼児教育の無償化が行われ、学校教育の始まりは幼稚園からとされており、現在幼児期と児童期の教育の架け橋プログラムが文部科学省中央教育審議会でも議論されているにも関わらず、一切教育データの利活用の発想には含まれていない点である。実際にはさまざまな支援が必要な子供たちの問題への学びの対応は乳幼児期からの有効なデータ活用によって就学への援助から始まり、その後の育ちと学びのデータを連続的に活用することが必要である。すでに箕面市や埼玉県などではこのようなデータ収集と縦断的解析も行われていると聴いている。生涯の学びを考えていくなれば、少なくとも公教育の範疇にある子供たちのデータを連続して利活用する発想が必要ではないかと考える。